860
28

禁賣

笑戯雑談

梅蔵堂珍蔵

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28

ガラス使用

860-28

笑戯雑談

目録

切先きい欠て刀敷(ママ)金と笑ふ事
貧窮ゟ居て仕上もなき実をゆる事
一人の過い万のもとる事
己をかへりみて隣の非をなを
養士の出を田ゟ取る果種の出い茶を
女児潜上ゟ知るまて
幽霊門ゟ通りて隣家ゟ入事
山水い景を賞して険峻洋流をゟ

860-

笑戯雑談

目録

切先矢きい欠て刀敷(しき)金と笑ふ事

貧窮ゟ居て仕上りなひ人の過い方のゟある事

己まゝ人ゝまて隣の水流をおさへる事

養生の虫を田ゟ捨る果種の虫い姿を

女児潜上ゟ河ゟまて

幽霊角(門)まて隣家ゟ文事

山水い景を賞して倹峻(険)洋流をゟゝまて

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28

ガラス使用

金剛の鍛治屑
小豆を下直ふして餡に高買をする事
金銀をやきもちとして貯ひ難き事
智者が毒中の薬を採愚者が薬とをして毒に中る
二人胸中の鬼を闘争させる事
人氣天に登りて善惡の氣を降さず
玉を捨て石を求るも奇後なる事
惡業を犯して生涯受ふ詮なき事
人殺忽大罪貴高名の場なき事
人の汗を餐ふ虫の掴ることの難き事

牛馬不具あり罵詈する居
妙圓尼難痘を辞夫せる
奇思を依り生業を
闇き冥祖を
な面醉戯諫
膽大心小
さてよそうて
借財のいひもやする方便
苦界のあとも

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

笑戯雑談

雲煙出西希編

性剛毅木訥なる者をおゝ
きて性急なる時強てそ
の物を学ばんといふとも思ふ
より仇討敵討をして討
ん者のこゝろ
さを悪人ともせず性急一端の
汚名を掛ざる者多し碌々として伊呂波

悪人とうまい事をして血気の勇ある事を
せず桶井林左衛門を親族の係るを
なんとも討ず却て卑怯の汚名を蒙る世人
理非を論ずる事なく鳴呼浅ましき事
なり赤穂方を義士の名千載不朽に
留るハ勿論なれども吉良方の討死せし人も
又天晴忠臣
○貧窮の居てせつなきを世情を通ず
世上もなき治構なき貧と云ハ
の道理をそこなふ事なり相応の
世の富貴といふとも智恵一つ書を讀
をもつて日人間の生まれ山斎閑雲先生三楽
て道を学ぶと二ツ卑賤の生まれて侯家を
と第一富貴権高の成長する時を
婢種々養育の人になりて美
善美を以て賞揚一事一事
ようの慢となり終に
抽ける程の人物にハなれ
るをもて不自由なる上下の人

用之則爲寃不用
則爲鼠漢書東方朔傳

以徹底する事を得ず一辟して富貴の人息を堀水
のそこ卑賤の子息を河水のそこ一心氣の生死能一
左善惡智愚其性を天地間自ら明白に一又書を讀道
を學ぶ一して世の中ふ
上下りそこ一して雷霆の如一といえども時の命
隱れ身を管中の窺ふ事を得ず一して世を響する
時を國土の民を施一して飢を救ふ事を得ず一徳を
さる時をもも一徳を修ふ事を得ず一學ぶ事を得ざる人とも
てなり勉ざる人とも一
欽文中子曰昔之好古者聚道今好古者聚物書曰玩

物棄志老子曰采貴難得之貨使民不爲盜と實
も上人の心を下千萬の心也學ざる不徳の權威も
慢格式もて治事とせんよりは徳を以世を治民
を轄育一仁よく天も替りて忠義もて勉事ごなさを
も又大のある實なり一て民俗道を志一敦化も
義ふ以得衆の理是を本意と令嚴重
して歸服とこんゆるをもて實意ふ
物を古語曰山峻則崩政刻則危三略曰令苛則衆
聽禁多則不行實ふ故人具情の窮まるを
防て治とて物を辰迷せすまを也をもて下民の

治大國若烹小鮮
烹魚煩則碎治
民煩則亂

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』 請求記号 860-28
ガラス使用

うち有て富貴の人無百年期強
作千年調鑄鉄作門限鬼見相笑と
ある欲中ふ居て受欲を意とせざる
さるなり

○一人の過ち万人のるなる事

齊の晏平中楚国ま使を階下ま又人の盗を縛し
のまり卿の齊國の者を盗をや晏子ま問て
りをえる柚ま王待臣ま問て彼盗人て何國ま来
り若て待臣云齊國の若なりと柚ま晏子ま向て
云江南の橘を江北ま植ふるま皆ま橘となる
枳

化せと其國を治ふるの言なり
ありて清高又我邦ま
ありて京師の人東武へ来
皆ふ江戸の人東武へ往て
江戸皆ふ化せざるを
皆此方ま住ことを
なり人の恥辱
を以て財貨を貸借せを必
を一て一街の内ふて其人
も貸借せず況ま

財貨を通ずる（恩）ものなり園主いかさまる
芸文人雅客と稱する者の中より畸人擬の逸人倣
い憂遇淪落と雖（之を清のん）も沐浴して（髪）人の物の
（この澤（さい）と）ものゝ朋友待（接）ゆけとさふらふて人の為を
惜事もこれまでふる涙（なみだ）を流（身上法）
為す志を（争）伸（信）ず志を伸ずして人の功十
種を備る（この名誉の幻術）ものゝ芸世（きこえ）遍（あまね）を
ねがふ者おゝきを（遺）憾（うらみ）とせず（貧）賤（いやしき）の浮屠芸術の
ことをかいつまむる（使）ものゝ如きは（困）胞の於意ある
一の消息ゝ云ふべきの（人）も亦（また）観（み）ることなり

そのまゝ又云借金云々親類な
ど云ふ（こと）ものゝ如く（恩）を（義）を（情）を（欲）を（悪）を
いと書（かき）て（悪）よく世（人）を欺（あざむ）くの（巧（たくみ）こと）を
知識（しき）といふものゝ（こと）を事（こと）と節（ふし）句（く）をまれて君子
ふい（ふ）ものゝ如し

○已（すで）に（人）を（欺）て（巧（たくみ）こと）を（縦（ほしいまま））
（詐（いつわ）り巧（たくみ）こと）を（縦（ほしいまま））にする者（もの）を（富豪）の人（ひと）
（この）吝嗇（けち）を（富豪）と（いふ）ものゝ（こと）を（誤（あやま）り）て（聞（きく））
素（もと）より（貧（まづしき））を（行（おこな））ふ（こと）を（恥（はぢ））ものゝ（こと）を（お）
（恥（はぢ））ものゝ（こと）を（知（しら）ず）或（あるひ）は（運（うん））に（乗（のり））て
品（しな）を（買（かひ））時（とき）の（お）（価（あたひ））を（貪（むさぼ）り）利（り）を（争（あらそ））ふ（なと）（此（この）（後（のち）の）（儉（けち））

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28　　ガラス使用

人以巧勝天
天必以直勝

銭財のごときは立ても遺しうべきも
為善は遺すことを得ず
無智にして身の安きを知るは
無事に去機心自閑と
穏なり

○養士の虫を田より果種の虫を放ち
人智をもて天を勝天の理の如
り人事作理あり相て不
天の定まるを待ち人事を
生を行うを理なり直を
す死を行うは非なり子曰父為子隠子為父隠直

在其中也と人貧る者を校黙の計略をなして奸
侫をこととして人を欺き一端利を得貪ふるを
とも十目の指すところ世人の是非をおそるべき
して一生をるるを僥倖とするは実に愚のはなはだ
直ありて貧をもるは心中安く身
る居るを甲斐なき平生
而すあるにしたがふ佛説と所謂地獄と
もそのの古語云陰徳あれば必陽報ありと
左氏傳も禍福門なし唯人の招くところと朝野
僉載も禍い恒の門を入るもの門を閉て福を辟さ

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

と福福の門を別ち人善をなせと禍悪
をなせと禍事をなすことを
なりなふをして必道を楊雲の画知を異
て人を欺の小利をこととせしむ上古より
名当代なくゆくゝ害の禽或を滅せるなど
佞媚奸計を立身一或ハ人尊崇
つの理を非ず拒て衆を防ぐありことを
ふ陰悪の種となりて身をこそ
大抵ハ此人ありさ之已ぞ成儀厳正を整或謾

儒者世人の誹謗をし不顧ず聚飲のことをなさ
ありて自任義の中ふ居ぬせ一時を危下世稼の
民ふ於てあや
中庸曰人莫不飲食也鮮能知味也蓋人経義を
読ことを知て食ことするをきてなにの
為ぞ掩ふもて心の霊明を明ふせるなり
又ハ詞誦章句のことをこそして学問ふあるなり
決て左ふ有ものを天地間ふ有ものを
ふことあることなり各生情の密ふ入りて
利解し可ふ一一皆明察誹急又正て善を

なるて沈深寛洪なるさまを比喩なりさし

○金剛の鍛治屠

儒家佛氏をさして邪教とて異端とて佛氏儒を
さして外道外典とて其外儒釋中まて諸子百家
の見識なりもの教道一種と名好惡ありて意を
含おを是とし一合ならざるあを非とするあを世人の
をなりされ所謂悖學窄問好察爾言よもち
さる者なり世業諸道各用ありて儒經は制度の法
則を定め老莊は活脱虚無を得禪機は活達
の法を得る益ありて其鳥氏道二子の教諭は世俗早り

道行ることをもるあり地獄極樂よりまて諭
さる愚夫愚婦あり皆善勸め悪を懲そのたな
ものとも異端とてとも世俗は益多くて害を少
し非とする云て非とこるあるあきもの
重荷をおすて教道ありて學ぬきこ
又蕭何張良韓信各漢家開創の人とて名生
の意ありてふて行ことを遠ありを動くて晉年の基とる
儒教は政道なるふ賢愚ともに昏迷なの
佛氏高妙とて其國土の異なれ此邦の政道
まいなり誰く故ふ善くて世學ぬ者ふて佛果をう

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

悪く迷ふ者を賢者と
より是を信仰して國家を
学んで世の間の益ともし
ものゝ如くして正不正とをも
孔子曰其知可及也其愚不可及也釋氏の説
法あれを勤て愚夫愚婦の心をうるもの俗吏の制
斷は賢道を以て杜富の場を禮儀嚴正の
堅苦るを不人和をうしなひ市街土軒の
長屋あり其内の信者事
あれども俗事よりをみて他をまもれもをうしなふ
ものゝ如くして一人愚のめくなるを
主詞客書籍を借りて酒食
憧なる老荘の意をとり又
法談或を聊窺なんと種々
縁を貪る佛氏の糟粕なり語類妙典を銅の
名家智識を銅中より
きことなり金と鍛治屑といづれを餘らんや賢智
識と詞走虚驕といづれを餘らんや
○小豆を下直にて餡を高買をすること
相撲俳優をまねて

興なり人甲多きゝなれ其門閑熱(ニギヤカ)なりて窮(マヅ)しき生活(クラシ)頗る大の如き又儒流無宗六藝云者流を俗の淫(ミダ)らをさゝるなれ其門閑なりて窮しき者多し故に文人詞客諸間と同時に招(マネ)かれ困(コマ)ものそして其場かある先生をい補せらるゝと聞(キヽ)て書肆の口入をなして活計の助力をさ窮難行苦行(ギヤウ)人(ニン)をもつて府内儒とつゝまて笑止(セウシ)なり又高名(カウミヤウ)をもつて窮(キワマ)れる其儒をとあて雑録(ザツロク)の序(ジヨ)文(ブン)窮(キワマ)れる盛(サカン)なるを美(ビ)とをして詩人(シジン)なるを美とをして活計(クラシ)の助力をさ窮難行苦中名(ナ)なれ活計(クラシ)是(コレ)世人(セジン)は愚(グ)と不思(フシ)と嗚呼(ヲコ)矣

なる我命なる哉と嘆息して又疏食(ソシヨク)を飲(ノム)み水を飲(ノム)み肱(ヒヂ)を曲(マゲ)て枕(マクラ)とし楽(タノシ)み亦(マタ)其中(ソノウチ)にあり(アリ)と言(イヘ)るを思(オモ)ひ合(アハ)せて賢人(ケンジン)を立(タツ)るの時(トキ)をいあく賢人(ケンジン)をいあく時(トキ)をいあく

臣あることを聞き武帝奢侈あまりて桑弘羊のごとき者出でたり玄宗奢侈あまりて王拱宇文融のごとき者用いられたり奢侈あるの故に財用乏しきに苦しむ故に財用乏しきに苦しむの故に理財の臣用いらるる大抵天下の治まり恭倹を本として仁義を主張し務めて天下の民の利欲の漸流を防制することに務むるを上財用乏しくして利欲を主とするの時に当りては政を乱し心を生ずる故か武帝の時に盗賊諸國に蜂起し玄宗の時に禄山思明の乱ありて両京覆没せり昔より然る所以これ甚しきなりき

予曽て一友人ありて世間の流蕩して頽靡の弊習を慨嘆し

をもて業となせる者の我門下に往来してある時に予また事を計るの少しく文字を知る世才ありとて仁義を仕事とせざるべからざるの理を説き我管見なおこれを仕て能財用を主張するの縁ありて出頭せり又君侯の官職を受領して舊臣のうち出頭せり又君侯の官職を受領して舊臣のうち出頭せり又君侯の官職を受領して舊臣のうち

豪の所人るとり入て財用の通達をもとも國之民
出堵ない遠ざる一子曰舉直錯諸枉則民服舉枉
錯諸直則民不服とおふ仁義我の臣を上ゝし財用の臣を次ま
居らしめて可なり一國家い民の歸服をいて上乘の宮
祿とあて座席の高下なるい事まい物
ことをもとも寶ふ國家安穩の良臣を諮詢ることこと
○智者い毒中ふ藥を採愚者い藥とそあて毒を中る
京の大儒東坡先生韓文公を賞して云惟天不容偽
智可以欺王公不可以欺豚魚力可以得天下不可以得
匹夫匹婦之心故公之精誠能開衡山之雲而不能回憲

宗之惑と唐憲宗帝い佛を歸依して政を過り給
收を韓退之佛骨を嘲る表をし上て遂て潮州へ流さ
る嘗て君子い正を好ゝ小人を不正を好む自然の理
也厩戸皇子蘇我馬子ともに佛氏の誣枉を信し
て両家子孫遠ざるまて滅亡せしめ其後ふ
り諸佛諸天を信仰なりて其身ふ不詳をる一人
牧
牧嘆をこのと子曰景語怪力亂神と祈念して不
測とゝい亂神なり素隱行怪後世有述焉吾弗爲之語也と已もう先祖の靈を
さまなり非其鬼而祭之諂也と祭るい皆欲心の諂也君子
其鬼ふあるふ也其余を祭るい皆欲心の諂也君子

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

喩於義小人喩於利故ふ君子を勧て善道に
小人を利して世俗を尊崇
せしむる佛氏の深き高妙いさゝか知るべきなり
又行怪後世の神佛の邪正如何を問ず
あらゆる病を治せんことを志望ふ家内
いと安全なるに依て遐迩病
外の神佛の加護を祈り其身の
なり家内の不平を
ものゝ如くなれば何ぞ
て加持の祈禱のと巫祝禿牛等が言ふ惑ふされ先

達の講中のと種々の邪説を
費をも厭ず看病
人形を玩弄ものゝ如く
下男の異国音のあるにそ
つゝ狂を設るまで
毒をもるゝ恥ること
とい宝ふ真と心ふかれ行
可憐ふ小児輩多きあれ大
夫子曰五之禱久矣と
影像幣帛的の
祀典祈禱のあるべき

心ある神佛
を外ともあるく貧財先陰を無益に費し
一生を昏迷なる（へさやう）
○二六胸中の鬼を闘争せる事

書書骨董を玩弄する者真偽の信ぶかくして
ゐる疑惑多くして迷ふこと多く
是又昏迷より発する故なり出所より
壮衣満腹にして論を発する者所謂揣骨聴聲
とやらむ（いふ）ものにて蒙昧の估（こ）客（かく）故ふ（ふる）又奸商
形影を以て智ある者を欺くが如く
皆是迷惑の媒介（なかだち）
米菅（すが）よりて帳
の體（てい）を困て風（ふう）をみて
毛刑（けい）を学（まな）ぶも
心画を画（ゑが）を訛（あやま）
らんや物（もの）を鑑（かんが）ふるに
むしろ困る形（かたち）
因（よ）て学（まな）ぶべきなり

二心事をそこひに訴
心画をそこなふ去（さる）
疑惑多くしてを伝
の境を語るべし即
皆忘想の如き是（これ）

狡黠（こうかつ）をなして壮衣満腹の模様或は出所（の証拠と偽（いつわ）りて人（ひと）を欺（あざむ）く
謀（はかる）ることあり或は貪心（どんしん）より始（はじめ）て計略（けいりゃく）を設（もう）け人（ひと）
て損毛（そんもう）及（およ）ぶ事あり笑（わら）ふべきなりんや
世上忘想心の多きこと這（この）方便説（ほうべんせつ）をするに如（し）かず
の笑談（しょうだん）とせよ昔時（むかし）或山寺（あるやまでら）に別房（べつぼう）あり常（つね）に鬼（おに）あ
りて毒（どく）をなす諸道人（しょどうにん）皆（みな）此（この）房（ぼう）を捨（すて）て去（さり）て住居（すまい）
せざる者（もの）ある時客僧（きゃくそう）あり晩景（ばんけい）に寺（てら）に来（きた）る
（仮（かり）に持（じ））雖（いへ）那（ども）即（すなわち）彼（かの）房（ぼう）に伴（ともな）ひ（ゆき）て泊（とまり）て曰（いわく）此（この）房（ぼう）を
鬼（おに）ありて毒（どく）をなす君（きみ）よく止宿（ししゅく）せ（せよ）
人（ひと）やと云（いう）時（とき）客（きゃく）此（この）言（ことば）を悩（なやま）ず自（みづから）持戒刀（じかいとう）を持（もち）て

を呼ぶそして謂て曰小鬼何の惱ある
我能伏せんとて入て宿を踈ま夜ふて又一人
の客比丘来て宿を求む維那亦彼房を教て
差ひ謂ること前のごとし比僧も亦持戒力
を特て敢ておそれず彼房に到るま先ま
任せ比丘堅く戸を閉て端座して鬼の来る
やを伺ふ爾時ま後の僧も門を扣てのち
人とも先の比丘ぃもを鬼なりと覚て敢て開ら
ぢる於て後の僧ぃ後肉ま鬼ありとうそて力を
極めて戸を撃つ内なる僧も亦力を極てもを

柜む幸まおある者の脳こそを砕て衝
ぁる内ぁる者必ぢ先を撃ち互ま鬼なりと謂て
已ぢ夜明て相見ぢて先ぢ故舊の同学なり相慙
て謝ぢりと云大智度論ぁ云ふ疑惑を解ふ
ぁり世人ぃ言ことぁて必ぢ悪の気と降ぢ事

○人気天ぁ登りて善悪ぁ民の気
領主無道ぁて百姓困苦ぁ民の怒気
天ぁ通じて悪気とぁりて蝗害並至悪報の
速きぁ怒気性急ぁるぁぁし先聖の時ぁあるぁ
ぁ聖廟の左遷せ下れ給ふ天命ぁ然ぁ

菅ぁ

何を庸人の評論をも後世聖文宣王
又は天満宮と尊崇せらるゝ天地ともに等
しき至徳ともいふべき是本
基本となりて善報の遥かなる
なるべきなり

○玉を捨て石を求むる奢侈の事

物の難きを貴とし一日を先祖
を労苦して財寶を積儲ふ故に自ら財寶貴
なり手際をなくそのゆゑ必ず集るもの
にて金銭を主君のごとく
思ふなり

貴くして性質容嵩なる者も一時の奢侈
時を問ハず錨玉ハ石金ハ
尊貴する生る人禮樂
もて和遊藝を欲
めるしるなり賤者
權を眞似貴人
郎妓遊を眞似
修るをもて在家の
遊女を眞似
なるい同
異なる

5386

ことあることなり一さのみと生質明敏なる人行謂好事とあるものそれ泥酒すること悟知して自ら慎むべきなり悪しき智者の好事は善き事と言ふとも悪行と悪事と好事は善き事と言ふとも悪行と悪事と

○悪業を犯して生涯学事を好むるの人世に甘んじてなすものそれ己れも善行を善行と言ふそれ行ふを補ふり悪行と悪行の食料を貪或は破壊の猶をつくりて衣とそれ

高人類或は華美奢侈の玩器を高き者ありそのそれへのそ俳優雑劇倡妓遊民の類を人倫を弁えて元来職行とそれこそ罪もなきの一良民と云ひ高利を営とそれ人の雑子をそのそれ或は冒目にそれ鴨とをそ醤の貴薬あると僧山伏なか持祈禱をそれ婦女子を欺て財物を奪ふ類是皆世上のそれ牧奪をこのそれ又これを行ふあるをそれ知ずより史ありて自己の尸をもなきそれ是不仁の行を増益をなすと工夫者と

老子曰知止不殆
禍莫大於多欲
富莫富於知足
慾不遏則燎
于原矣慾如水
不遏則洋洞溢
矣

○人倏忽大富貴素貧賤而行貧賤富貴而行富貴素貧賤高名の場合ある事

素富貴而行富貴素貧賤而行貧賤富貴高名の場合ある事

榮を捨たる後々三百或は五百年の末迄其高名を知
あるゆゑ善惡賢愚の論評をもり名ありて放
榮なんどもり名ありて放ともいふことなし。清盛公を無道と
頼朝公を當今の人又後迄も賞美する將とこひ尊
氏朝臣を奸雄と評揃公を忠と稱し勝頼を愚と
もし乱し寔に當りて是非ともに百年と二百年と一年
何ぞ非義を後榮を謀らんや君子居易

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

以俟命小人行倹以儌幸の為
々都下の盤石を美宅として
千年万世の計と為し漸々一家
其子孫不肖子孫又い富貴
族多く宮ふ大僧正のごとく
者之離又い富貴於我如浮雲
計る者い迷闇のて我才智
掩られてかつ人の艱難を
人の誹謗をも不顧非義の

高明之家鬼瞰其家

かふらく志ありて人をもそ
おのづからことを破り大富貴
貴の人となりて己もこれ
自滅し升高不知回竟作塹壕枯
〇人の汗を餐の中にて揃
ことの難き事
人まことに赤飯をもて死
恨の周忌赤飯と餅大餅
つれ潤食をまるに四時
ども名を出一つをも所謂命い
ひ一身の小天地と協のやう
名利とも欲をも又食

ていた気もなのそ一体飲の名
さるきすれうきそのか世渡りそ
ともものくれ名どを製作する百
秋の実のり近い水損旱魃の愁を
粋身一つり熟せしとなりホッと息つくせ
一日の水をそこ一夕をこれ風か吹倒され一年共作
を安水の泡とそる千辛万苦つうんこれ一年上
鎗扨鎗を不思議扨も之名答の流のさ
百姓の考慮い妻飯野菜のふて等の悦像
ハ幸のもるる千魚まて
告とごつき泊幸こ

自歩行のぬれてこらいそ士の體うえくこ
のれとも伊尹朱賢臣の業
撃をこのう三宝ふ米穀い大切
でい飢もる者ふ施せそ佛氏
者い仁者と賞め又陽徳陽報と彰
朋友を會ことふ喜ぶ世人の
俗家幼童まて一粒
と古人の表論ふ
を焼とふそも又
黄泉ま喰ハーむれそ慶

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

大志の仮倆尤も量るべきを一話あり墓
将墓い親の死場も不倉ものとひ移民もを
難しそのよ当を開も置とも必もて往返林
のれとも飢を高るを審なれ来も勤て順なる放
荒年あた年して一なり養平の冨貴人先祖の
幸苦ふ方也あー苦修か時日を費て大義を
忘て非事を素餐ま勤せ
ニを百姓衆の汗汁なれを
等ー徳を惜愛
信始ま掩ふく武帝玄宗
論倍 荒れ

扶持切米を出して舊臣を退ず天晴の逆君なり
中ふ新参の軽薄聚欲
ひ利をなて賢良なへ
善あり良て悪いより多
な隋人民利を闘
子息民の情を礎味して苦楽をともふ
牛馬不足あり嵐富
牛馬米穀を作る為労ー重荷を負て山
阪の峻ま往来ー事ら人の業用の助力ま
ろ平生の食草蔓なり嵐ハ異四賓

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28　　ガラス使用

を呼損されてもなお米穀或いは多くの食中ふ
居住して飽足ることを知り高のりて牛馬と
なりて草葉を喰ふが如し必嵐となりて世上の
器寶を呼損ずることあるべし
附録
妙圓尼難痘を辞去せる
妙圓尼は奥州會津産安西氏如なり年十七
歳にして婿を雷めて某家の妻となりたり
落命のとき其年已に寶家の父母ともに存命
なりしが陸奥の騒乱より皆散乱せり独り

第七才なりしを乳婢せ一家ふり居せしめ養
育せりしが其翌三年十九才のとき難痘
を病しに端麗なりし容儀も面頬腐爛を形
容忍ぶべきに更に昔時の如く容儀も面頬腐爛を形
しかば己れ悩乱せしを色衰而愛
なりみれば頓逝憤懣の余り沈吟して
弛の道理を推ふて慚愧を自ら相諍して断
縁のことなれば夫も亦一言をも言ふ但
せ国静をもるもしくみて弥益として生涯
一発心の志念深くして別度をなす幼少

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

なお此子ともも法門を信ずるゝと云ひて
浅草新寺町日蓮宗本立寺の半黙和尚の知遇あるを
恃みて弟子尼となりてより
貞烈日々うるはしくなりゆくを
をりゆふ法旦越ありて
笠本施募傷そるをそ又和尚と寺宝
又も近隣の貧家より附よりて他徴もあるを
ずして汚袍粢食もて快怙そして空門の
意厳然たりゆふ衆僧おのをりを窺ひ或
ひ勧め或ひ説いて奪ひとらんを敢て疑念なる

りしかゝるに多一其宿懐の如一志れを衆僧
の機行をうらみつけ之を懲らさんとて同僚
の竟ふ不遇ゆふ寺中の居
遠居一悟こゝもとして星霜を閲するあり
て云我兄弟會津城下の
士なること代々石碑の作あるとも
其遺跡を尋ぬるに只墓所の容易ならざるを
るのと天保七丙申六月十七日本立寺に於て寂年八三
安西藤兵衛會津の産七才にして姉妙圓尼な

従て東武みより多て貧故亦者某ら厄養
と早霜を罵奴年三十名餘歳則古衣を高
あをいつく生活とそ営て本立寺ら在住そるあの
姉尼の安否を叮嚀に書未て学養
う事あとそ生質温和直實ふて動止安雅
なとそ玉まと交情よく信あり中年子を養
あて子とせり晩年ら説話して云ふ中年の比
上州一の寺ありて旅りせりそ後面より
僧歩の来るあり其ら同伴とありて相語山海
のことよりて甚多の事ら遍歴を僧云ふり
世それそ話乃如

一江遍々東武へ出府なそ柳原とて貴故衣者等多
あるおる多り辛七ら僧衣を需あるて伊村のあり
しが或時隣村ら法事あ
猫雨津多と隔り慌
福衫忽多そて剃彼
中あの甚苦悩せり
る生業ふなとの心
多そとあの女多ら
容貌を熟視唯とも
ひ一ハ孔子ふそ

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28

ガラス使用

冷笑して去のち其隠操(自)ぬしの晩年はより臨終(うつうつ)の日限をかりて半里ばかり(ほうる)隔(へだ)たる舊知(きゅうち)(ゆき)訣(わかれ)を告(つげ)て天保三壬辰(たつ)十月廿日暁(あかつき)に屋(や)もるるもめく没(ぼつ)す享年七十闇(やみ)に曩祖(のうそ)を慕(したう)て事

予或時山壽齋(さいの)先生の詩を閲(けみ)するに事あり(有)名(な)を真跡(しんせき)に旧(ふる)来(き)(たる)ことなれども(ども)世(よ)に加筆(かひつ)(ま)載(のせ)ざるや(や)名(な)(を)(ま)(ま)(ま

天照大神の以来おなじくいまだ予唯好古人の傳録を数多くひろひ集めて喜ばしくよろこびすぐれる祖先ご知る事ども事ともて後生の諸君の示そとあや一時の用ふるのみならず遠き世までも伝はりゆきて無窮の大業をひろめやとおもふのみ

因ふ藤井懶斎先生の諺云淳和帝天長年六月十三日勅して曰王者用人を唯才これを貴とそ朝ふ厭養ふるも夕ふ公卿ふ登ふる志ふ況や生徒なんぞ門資ふ拘りんと豈哉勅也これふ由て之を観ふて則今世民族を重ふるも亦舊章ふ非ふ云々

近世諸家没後其子弟或ひ朋友知音等の寄附を以貧財を集めて市街の寺院ふ庸暗の文書ふて立碑せること多し薄俗の陋也ふる時ふ至ては無縁の族なりとて石塔を廢ふれふる始ふ及ては地ふの為ふ滅ふるに至れり嗚呼悲哉

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28

ガラス使用

あん竺摩砌と
なお酒酔戯諫
殷紂王の酒池肉林を即酒つなに流しを周
の下戸をを南とあて堤防をするをも李白一斗死一斐
み瀧つりの形くつこなる神くてあへこそ竺父母
て破滅そる者史ゆ
より活ある身體髪膚を有頂天痴ようわく
れおそのその内根い腎虚と時を同うを酔中の
行作あるをと醒そいまこれ為
ま大丈夫もそつをと思ふべきなれあさら敬をま

金銀をぬわこうて先祖の汗を散財をあ後
く直言之をを川流の雲をなてなみ
みな酒あれあれ貧人も下女の同傷(ナヤマ)を
屋敷のさひなやもそ莊宅(シモベ)い勝手よ居者も
りよあやをちなし酔倒して埒されを親そう
そふなをを吐をあ聖つまれな後
酔ふく放蕩相夫よるタ一あるく遠
のあをれを汚のう一とをも(々)とを勉父の
顕面のそり叶里いそいことをかそよをまい
百笑化(懺)ぶり会ぬ酒酔そ酒ものをあ

荀子云
水則載舟舟則覆舟と述給
擔湘なり凡ソ上潮（満潮）
不孝幸助歳
ことなくぬと共に
住めることなり
よりて再と
ねる迄熟睡
ことつう例あり

膽大心小

壱年前髪のあと頭面ふさふさとして
一ヲ段と壱楼假宅の砌も胡椅を嵐の
ど
と潜こと翌り金の半を倡る弟半を
み弟く粥游ふて勿卒ありとも廊のなり
貧窮の狂重人物の与下ありてこを気とこる
ひ寝食を亡ふまで
い他人の佗言ふ聞こ

蝶蛙の姿大ふ両ふ一或時姉と父母の貧宅邸を
顧ふ自ら思理ふ止ぬそれより稍時星霜
十三年を歴て三十四歳の春と成り日本橋茅枝
阪を越て中の町の夕景迷君道中の光景翠
の黒髪遠山の眉根柳腰雀巣にそして
龍麝の香気馥郁多り青松立街ふ
細一倡家の簷下ヌ停立あれを格子の前面
倡を喚あり卒尓る引牛なれを連立く
ど着ふる小三枚あれを面差
して往通人ありも形勢を着るたるの

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28

ガラス使用

○悉皆善皇の賽銭と皆さまご指の印

借財のいひもやをすて書便
釋迦とおっしゃるものの御苦
ハ阿羅々呵羅々と方便の
目を千眼千手を自在
薩埵やもろもろの得脱
千八聲郭公天
大言い安ふ大見世のお職
ま五百羅漢のお社あり封
全盛もおりハ湿槃まお茶を引
章経いひまつやと大勢

耻を工夫の初り始いう、年齢四十余年未
見真實比る迄く妙法を花い蓮華ふことめりと
く学量の功うもく全堅小観音勢
至地蔵薬師そのつとも如
そのとる阿陀陀のその目うもむく世を地極
あるとやもの邪見小目連もうきふつくそ苦界
する提婆達多のでくもこも千つてお
きつめ為癡だりなく般得い文珠のふあや
なれ阿難迦葉の微笑と胎一物あるとを
ふめとりて目今せのもつもとそて堂一物

なふのく仏まて如方をく初會うら會三會花ハ
向小訓源る紺殿小御ののあ我等ふことて
おとつれのいそくつういぬ御又をよ乗そら
そそるくまつる光明の光り輝く佛世界とのく
述名傾城い新吉の気を虚空来衆生属
なとをなそなそ京の遊女の子尾供養せ
して愛敬空今て仇をる身の因果何方(ドコ)ふ為の後
自川のうつも愛も八百の虚てなれて客た来
ぞそ名ろりよりそつもも直指の人ふ過小時あそ
在意の宝を取りて帰ふあるとかや虚々

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用

實々のえん徳ハ海よりも深く
里ゝし千差万別人をえて方れとも多くハ善悪の胸
を指揮して終のやり方
でそるをざえう日浮沈と流るゝ身
実情の義理とおもはれす表狀ハ素より
実狀を行ゝ瞞(タヾ)べ遣(ツカハス)べ皆ときまれ
うきつとめするまゝ沈ミ蓮(ハス)ふねもと
去(いな)やおも稼(かせ)ぐまゝ
（其裏のあとも）
川竹の流るゝ身をうたゝあるほど(ほど)
三国の歌川の句ハ切(きれ)ゐるとおりや落水
又潮来のハあの句ハおもあるハあの句ハ
句とて其(その)後(あと)ハ
ハなさゝれ(ハ)ゝと打(うち)
ま(あるま)ゝ迷(まよ)ひ迷(まよ)ふ又ちつるり
あゝ(ハ)ゝ我身をおもふ
笠又蓑(みの)よりあるれを
着(き)れ名所(なところ)ハ
ハ(ハ)ゝ我(わが)身を恥(はぢ)る多(おほ)く

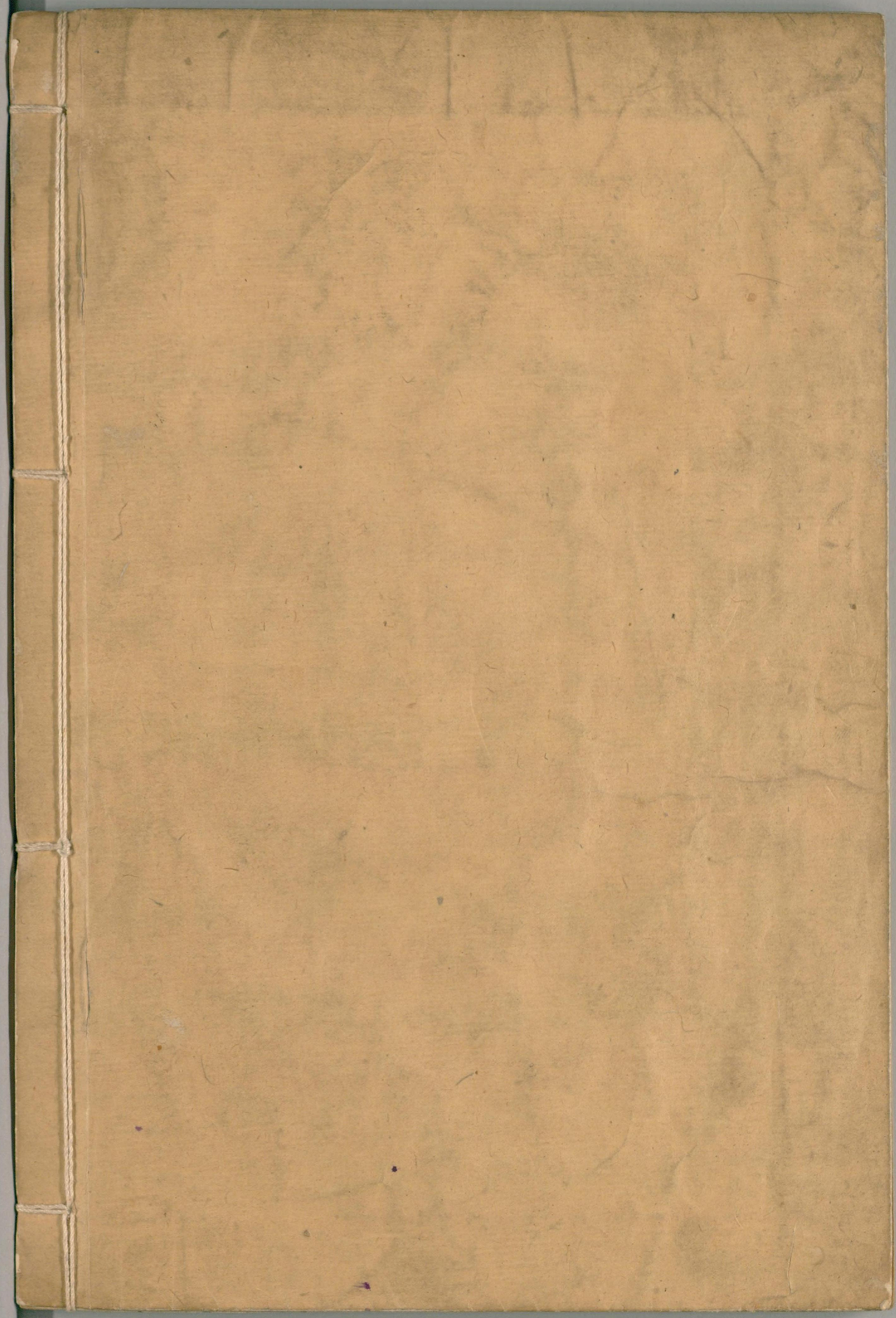
860
28

5386

放蕩堂懶斎主人 著

道の如き刑をうる者あり或い侠婦と立ヌ
て重罪を負う士あり或は刑法を犯せし賊徒を
それも不善の者の為に玩弄となり堀井戸のすて水を
も不厭ことゆく立ヌ出ぬの者もなく笑そつ
らのもれを泣てうもつてもタタ迄てあり又あり迄
めれをつこれていでよ
もつより我邦の一番鏡より危くつこにあり
あいだ
すれ迄これをみてそ
制等切りをつそ借う古つま
の無一多ていい

国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』　請求記号 860-28
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『笑戯雑談』 請求記号 860-28

ガラス使用